

6. 水利用の現状

6-1 水利用の現状

(1) 河川水

留萌川水系の水利用は、明治18年頃からの開拓農民による農業用水路としての利用に始まり、現在も留萌川水系の水利用は、そのほとんどが農業用水によって占められている。

表-9 留萌川水系水利用現況

区 間	かんがい用水		そ の 他	
	件数	最大取水量 m ³ /sec	件数	最大取水量 m ³ /sec
直轄管理区間	63	1.1539	1	0.00003
その他の区間	200	1.5898	1	0.00186
計	263	2.7437	2	0.00186

水利権調書 平成10年3月

(2) 農業用水

留萌川流域においては、農業用水の利用が盛んである。

感潮域の約1km上流であるKP5.6地点を取水の最下流地点とし、これより上流において本川、支川各所で利用され、約1,060haの耕地の農業用水として2.7437m³/secが取水されている。

(3) 水道用水

留萌市の水道水源は、他流域である隣町の増毛町を流れる新信砂川であり、ここから最大14,800m³/日(0.172m³/sec)の取水を行い、留萌市街部を中心として供給している。

1日最大給水量は14,193m³(平成9年度)であるが、下水道事業の進展や生活環境の向上等を始めとし、1人1日平均給水量は増加しつつある。また、中上流域では留萌川支川からの取水による簡易水道である。

以上のことから、留萌市では、長期的展望に立った水源の確保、水道施設の新設並びに改修が必要であるという観点から、新たな水源を留萌ダムに求めることとした。

留萌ダムにより新たに開発される水資源の量は、約10,000m³/日(0.116m³/sec)である。

(4) その他の用水

その他の用水としては、幌糠除雪センター等の2件(0.00186m³/sec)である。

(5) 地下水

留萌川流域における地下水利用は、総井戸本数115本、934.8m³/日である。

最も使用量の多いのは工業用水で、全揚水量の91%を占めるが、井戸本数としては1本で、その深度は150mであることから留萌川の短期的な水位変動の影響は受けない。また、生活用水としての井戸本数は102本と最も多いが、その使用量は約6%で、主に雑用水として使用されている。

表 - 10 地下水利用状況

	生活用水	浴 場	工業用水	農業用水	その他	計
揚水量 (m ³ /日)	52.8	30	850	0.9	1.1	934.8
本数	102	1	1	9	2	115

地下水利用実態調査(昭和59年度)

6 - 2 湯水被害と湯水調整の現状

(1) 湯水被害

留萌川水系における水利用は、そのほとんどが農業用水によって占められており、湯水時において安定した取水が確保できず取水障害の発生が懸念される。

また、河川水質は、BOD75%値は、環境基準値を達成しているが留萌橋地点の月別のBOD値については6月から8月の期間で環境基準値を超過することが多く赤潮の発生も見られる。

(2) 湯水調整

留萌川水系において湯水調整基準流量を下回った年は昭和54年8月19日から27日の9日間、昭和59年8月15日から22日の8日間などがあるが、湯水調整までには至らなかった。